

Managing Business and IT

---

**Plaza-i ZEX 他社連携**  
*User's Guide*

---

---

Business Associates K.K.

# ユーザーズ・ガイド

Plaza-i Aligning External System  
Plaza-i 他社連携システム ZEX

Copyright ©2006-2019  
All rights reserved  
株式会社ビジネス・アソシエイツ

本書の一部又は全部について、株式会社ビジネス・アソシエイツの書面による許諾を得ずに、無断で転載または複製することは、認められません。

## ソフトウェア使用許諾契約書

株式会社ビジネス・アソシエイツ（以下、甲とする）は、本契約書と共に提供するソフトウェア・プログラムおよびユーザーズ・ガイド（以下「許諾プログラム」とする）を許諾プログラム購入者が（以下、乙とする）下記の条項を遵守するという条件の下に、特定の場所の特定の一台の機械で利用する権利を付与します。許諾プログラムは甲の独占的な財産であり、許諾プログラムに対する乙の所有権は購入した許諾プログラムが記録されている媒体に限定されます。乙は、許諾プログラムが甲の重要な知的財産であることを十分に認識し、その全部か一部かを問わず、第三者に漏洩、流出することがないように厳重に管理しなければなりません。

**第1条** 乙は本契約に基づき実施許諾されたプログラムを、機械読みとり可能な形で使用する事ができます。甲はいかなる場合であっても乙に対し本契約、本契約による使用権、本契約の適用されるプログラムまたはその他の一切の品目に関する譲渡、貸与、賃借、第三者への再使用権許諾及び移転に関しての権利は許諾しないものとします。

**第2条** 乙は、本契約に基づき甲から提供された許諾プログラム及び許諾プログラムに関する全ての資料を許諾プログラム及び資料に記載された方法による場合を除き甲の事前の文書による承諾なしに、如何なる場合においても全体的又は部分的に複製することはできないものとします。ただし、乙はバックアップ用プログラムとして機械読みとり可能な形でソフトウェア・プログラム全体を2部まで本使用権に基づき複製をとることができます。乙が作成した許諾プログラムの複製にかかる一切の知的財産権は、許諾プログラムのオリジナルと同様に、全て甲に帰属します。但し、許諾プログラムが記録されている媒体は甲の所有物にはならないものとします。

**第3条** 許諾プログラム及び本契約に明示した方法により複製した許諾プログラムは使用権を購入・許諾した指名ユーザもしくは機械でしか使用することはできません。

**第4条** 許諾プログラムは、甲が開発したパッケージソフトウェアであり、特定の事業形態や特定の取引について完全な対応・動作を保証するものではありません。また許諾プログラム及び許諾プログラムに関する全ての資料は、その仕様について事前の通告なしに変更されることがあるものとします。さらに甲はいかなる場合においても、許諾プログラムを運用した結果の影響に関しては、一切の責任を負わないものとします。

**第5条** 本契約における使用権は乙が本契約に同意したときに発生し、乙が甲に対し1ヶ月事前の文書による通知を出したとき、あるいは乙が本契約の何れかの条項に違反したときに甲は乙の使用権を終了させることができます。なお使用権を終了しても許諾プログラムの販売代金は返却しません。

---

Plaza-i ZEX

Plaza-i 他社連携システム ZEX

ユーザーズ・ガイド

2006年10月発行

更新履歴 2019年1月1日

©2006-2019 Business Associates K.K.

株式会社ビジネス・アソシエーツ

<http://www.ba-net.co.jp>

落丁・乱丁はお取り替え致します。

# 第1章 概要

第1章 概要.....	1-1
1. はじめに.....	1-2

---

# 1. はじめに

---

## 特徴

- ▲ Plaza-i は特定の他社のパッケージ・システムとの連携（インターフェイス）をサポートしています。
  - **USR** ユーティリティメニューの「ユーザデータ交換処理マスター」を利用したテキストデータによる連携に加え、オラクルのデータベースリンクを使用した直接的な連携も可能です。
  - パッケージとして連携をサポートしますので、運用方法も含め、確立したセットアップ例を説明します。

## サポートするシステム

- ▲ 電腦工場
  - 株式会社エクス社が開発する生産管理システムである『Factory-One 電腦工場 For Windows』にデータベースリンクを使用して直接連動します。
- ▲ Super Stream Core
  - エス・エス・ジェイ株式会社が開発する会計システムである『Super Stream Core』に仕訳（CSVファイル）を転送します。
  - 但し、現状、ユーザ側がユーザデータ交換処理マスターを使用してフォーマットを指定したり、マッピングを行えたりする方式ではなく、個別に SQL スクリプトを開発する方式です。

## 第2章 電腦工場システム

第2章 電腦工場システム.....	2-1
1. 概要 .....	2-2
2. 商品マスター連動.....	2-5
3. 売上データ連動 .....	2-9
4. 仕入データ連動 .....	2-13
5. 有償支給データ連動.....	2-17

# 1. 概要

## 概要

### ▲ 中堅・中小製造業を想定

- 生産管理を、株式会社エクス社『Factory-One 電腦工場 For Windows』（以下、電腦工場システム）で行い、債権管理、債務管理、財務会計を Plaza-i で行う運用に対応しています。
- 電腦工場システムは、作成した会計データを Plaza-i に転送します。
  - ⇒ 出荷実績データ→売上傳票
  - ⇒ 受入実績データ→債務計上傳票
  - ⇒ 材料有償支給実績データ→債務計上傳票
- 電腦工場システムは、作成した下記のマスターデータを、Plaza-i に転送します。
  - ⇒ 品目マスター→商品マスター
  - ⇒ 上記以外のマスターは連携しませんので、両システムで手入力により事前に登録する必要があります。
  - ⇒ 特に取引先マスター（得意先、支払先を含む）については運用上の十分なお配慮をお願い致します（例えば Plaza-i に得意先マスターが登録されていないと、出荷実績データが転送されてくる際にエラーとなります）。

### ▲ 電腦工場システムの概要

- クライアントサーバ型
- データベースは Oracle
- 1工場=1スキーマ
- データベース名、スキーマ名は任意。

### ▲ Plaza-i システム構成

- 債権管理：Plaza-i 債権管理（ARS）
- 債務管理：Plaza-i 債務管理（APS）
- 自動仕訳：Plaza-i 自動仕訳（JNL）
- 財務会計：Plaza-i 一般会計（GLS）

### ▲ 電腦工場システム構成管理マスター

- 現状、「電腦工場システム構成管理マスター」に関する入力画面は Plaza-i システムに組み込んでいません。
  - ⇒ 従って、設定内容等については、弊社コンサルタントに個別にお問い合わせください。
- 電腦工場システムの処理対象と、Plaza-i の処理対象会計単位（企業、会社、本支店）を定義するマスターを、Plaza-i 側で持ちます。
  - ⇒ 電腦工場システムでは、1工場=1スキーマ。
  - ⇒ Plaza-i では、1工場が会社、または、本支店となります。
- 電腦工場システムの Oracle データベースを参照する Oracle データベースリンクの名称を、「OracleDBLink 名」に登録します。
  - ⇒ 「Oracle ユーザ名」は、OracleDBLink をプライベート+固有ユーザで作成した場合は登録不要です。
- 売上データ連動で利用する「売上タイプコード」の規定値を設定することができます。

### ▲ データベースリンク

- Oracle データベースリンクを利用し、Oracle データベース同士で直接データを参照します。
  - ⇒ ユーザデータ交換（例えば、売上傳票外部データ取込）のようにテキストファイル等を介さず、データベース間で、相互のデータを直接参照します。
- データベースリンクは、プライベート+固有ユーザ、名称は任意で作成します。



- ⇒ create database link “データベースリンク名” connect to “接続先ユーザ名” identified by “接続先ユーザパスワード名” using “接続先 SID”
- ⇒ 接続先 SID は、Plaza-i 側 Oracle サーバの TNSNAMES.ORA ファイルに記述する必要があります。

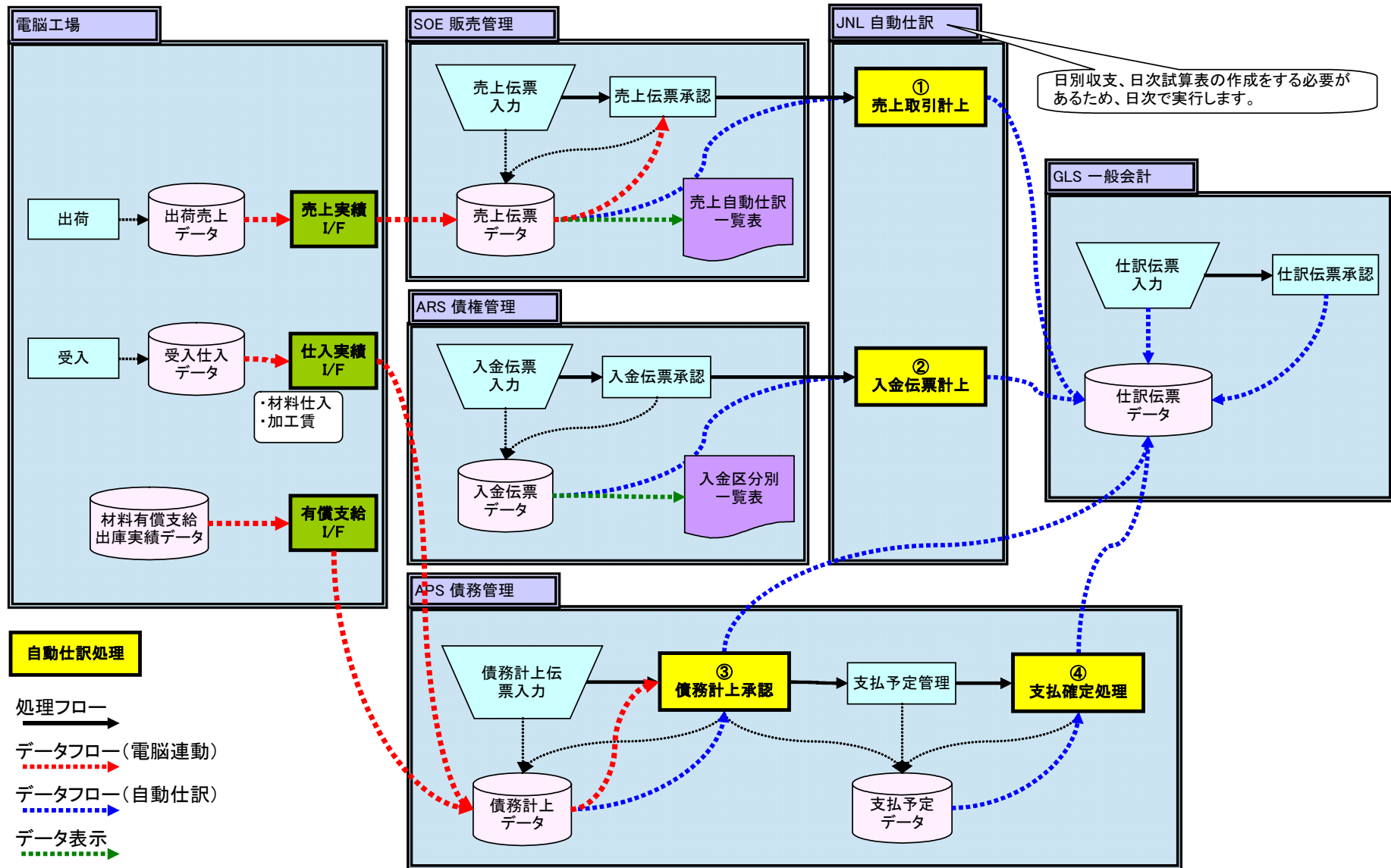
#### ▲ 転送実行処理

- 転送処理は、すべて電腦工場システムのメニューから実行します。
  - ⇒ 処理実行時のエラーは、電腦工場システム側で確認することができます。
  - ⇒ 処理実行対象のうち、1 件でもエラーレコードがある場合、処理実行後に、エラーリストが表示されます。
  - ⇒ 処理が異常終了した場合、エラーメッセージが表示されます。
- エラーの内容は、電腦工場システムまたは Plaza-i サポートへご連絡ください。

#### ▲ 転送処理の処理対象と、転送実行時のデータの適用 (Commit) ・取り消し (Rollback)

- 転送実行の処理対象データは、処理実行時点で処理未成功のデータ全てです。
- 転送実行・成功したデータは、再度、転送実行することはできません。
- 転送実行処理は、処理対象データ 1 件ごとに、適用 (Commit) または取り消し (Rollback) されます。
- 転送実行処理が、エラーレコードありで正常終了した場合は、処理実行後、電腦工場システムでエラーリストを確認することができます。エラー解消後、再度、転送実行してください。
- 転送実行処理が実行中に異常終了した場合、その直前までのデータは、正しく適用 (Commit) され、エラー発生時点で処理中のデータは、処理が取り消 (RollBack) され、その時点で、転送処理が中止されます。
- 作成者・更新者ユーザ ID
  - ⇒ 電腦工場システム側の転送処理実行ユーザ (Oracle ユーザ名) となります。
- 作成日付・更新日付
  - ⇒ Plaza-i 側レコード作成時のサーバシステム日付となります。

▲ システム関連イメージ図 (電腦工場システム→Plaza-i 会計データの連動と自動仕訳)



## 2. 商品マスター連動

### 目的

- ▲ 電腦工場システムの「品目マスター」を Plaza-i 商品マスターに取り込みます。
  - 電腦工場システムの「品目マスター」に対する更新レコードを、Plaza-i 商品マスターに反映させるメニューが電腦工場側にあり、これをユーザが適切なタイミングで起動させることにより、上記目的を実現しています。

### セットアップ

- ▲ 共通セットアップ
  - 本章、概要（節）で説明した「電腦工場システム構成管理マスター」と「データベースリンク」を設定します。
- ▲ 商品管理区分マスター
  - 後記の「インターフェース項目」の商品管理区分 M コラムにおいて○で指定した項目を、商品管理区分マスターに登録します。
- ▲ その他マスター、特に、商品集計コードマスター
  - 同様に、I/F 項目コラムの商品集計コード行に示すように、電腦工場から転送した商品集計コードデータが、Plaza-i の商品集計コードマスターにあらかじめ登録されていなければなりません。

### 留意事項

- ▲ 在庫管理は電腦工場システムで行うことを前提としています。
  - 仕入・在庫管理は、電腦工場システムで行うことを想定しています。
  - したがって、商品マスターの在庫管理関連のフィールドは、インターフェース項目に含まれていません。
  - 商品マスターは、「売上実績データ連動」のために必要となります。

### 運用上の注意点

- ▲ 以下の項目は、必須項目となります。
  - 商品コード
  - 商品管理区分
  - 商品集計コード
  - 上記項目がシステム上の必須項目ですが、内容的には商品名も登録していないと意味がありません。
- ▲ エラー原因
  - 必須項目がブランクの場合、エラーとなります。
  - また、下記の場合にエラーとなります。
    - ⇒ 商品管理区分が Plaza-i 商品管理区分マスターに未登録または非使用となっている。
    - ⇒ 商品集計コードが Plaza-i 商品集計コードマスターに未登録または非使用となっている。
    - ⇒ 単位コードが Plaza-i 単位マスターに未登録または非使用となっている。
- ▲ 追加処理
  - 処理対象の品目コードが Plaza-i 商品マスターに存在しない場合、追加処理となります。
  - インターフェース項目にないフィールドは、Plaza-i 商品管理区分マスターよりセットします。
- ▲ 更新（変更）処理

- 処理対象の品目コードが Plaza-i 商品マスターに存在する (非使用区分は考慮していません) 場合、更新処理となります。
- インターフェース項目はすべて上書き更新します。  
⇒ ただし、インターフェース項目がブランクの場合は、更新しません。
- 商品管理区分が異なる場合は、商品管理区分マスターの項目はすべて上書き更新します。  
⇒ ただし、単位コードは、インターフェース項目の「単位コード」を優先します。

#### ▲ 削除処理

- 処理対象の品目コードが Plaza-i 商品マスターに存在し、他のマスターや取引データで一度も使用されていない場合に限り、削除することができます。それ以外の場合は、削除することはできません。

## 技術情報

#### ▲ 電腦工場システム側から処理実行します。

- 電腦工場システムで中間テーブル「DFW\_M41P」に、処理実行時点での転送対象のレコードを作成します。
- Plaza-i スキーマにログインし、
- Plaza-i スキーマのストアプロシージャ「ZEXDFWIFITMM」を実行します。
- 「ZEXDFWIFITMM」では、
  - ⇒ 「DFW\_M41P」から未成功のレコードを全件読み込み、
  - ⇒ 1件ずつ、
  - ⇒ Plaza-i 商品マスターを作成、
  - ⇒ 「DFW\_M41P」の該当行に処理成功の区分値を書き込む。
    - \* 「PLAZA 取込済」を'1'に更新
  - ⇒ Commit (2フェーズドコミット) します。
  - ⇒ 1件処理中にエラーが発生した場合、
  - ⇒ Rollback、
  - ⇒ 「DFW\_M41P」の該当行にエラー内容を書き込み、
    - \* 「更新 ERROR」
  - ⇒ Commit します。
- 正常終了した場合 (RtnCD=-20000) は、処理終了。
- エラーレコードありで正常終了した場合 (RtnCD=-30000) は、電腦工場システム側でエラーリストを表示します。
- 処理が異常終了した場合 (RtnCD<>-20000 かつ RtnCD<>-30000) は、その時点でロールバックされ、エラー内容がメッセージボックスに表示されます。

## インターフェース項目

## ▲ Plaza-i 商品マスター

	フィールド名	フィールド物理名	I/F 項目	商品管理区 分 M	その他
1	企業コード	EntCD			電腦工場システム構成管理マスターから決定。
2	商品コード	ItmCD	○		
3	商品名正式	ItmNM	○		
4	商品名正式 2	ItmNM2	○		
5	商品名補助	ItmNMSub	○		
6	商品名略式	ItmNMAbr	○		
7	商品名略式補助	ItmNMAbrSub	○		
8	検索コード	LkuCD	○		
9	商品管理区分コード	ItmMgtSTCD	○		
10	商品集計コード	ItmSumCD	○		
11	商品ユーザ定義コード 1	ItmUDefCD1	○		
12	商品ユーザ定義コード 2	ItmUDefCD2	○		
13	商品ユーザ定義コード 3	ItmUDefCD3	○		
14	商品ユーザ定義コード 4	ItmUDefCD4	○		
15	商品ユーザ定義コード 5	ItmUDefCD5	○		
16	商品ユーザ定義コード 6	ItmUDefCD6	○		
17	商品ユーザ定義コード 7	ItmUDefCD7	○		
18	商品ユーザ定義コード 8	ItmUDefCD8	○		
19	商品ユーザ定義コード 9	ItmUDefCD9	○		
20	商品ユーザ定義コード 10	ItmUDefCD10	○		
21	単位コード	UntCD	○	○	
22	箱単位コード	CtnUntCD		○	
23	物流単位コード	LgsUntCD		○	
24	物流箱単位コード	LgsCtnUntCD		○	
25	在庫単位コード	IvtUntCD		○	
26	売上在庫単位換算係数	SalIvtUntCvtNum		○	
27	物流在庫単位換算係数	LgsIvtUntCvtNum		○	
28	箱数入り数利用区分	BoxPcsUseST		○	
29	梱包材決定方法区分	PkgMtrDtmMtdST		○	
30	物流箱数入り数利用区分	LgsBoxPcsUseST		○	
31	商品数量小数点桁数売上	ItmQtyDecPosSal		○	
32	商品数量小数点桁数仕入	ItmQtyDecPosPur		○	
33	商品数量小数点桁数在庫	ItmQtyDecPosIvt		○	
34	商品単価小数点桁数売上	ItmUPDecPosSal		○	
35	商品単価小数点桁数仕入	ItmUPDecPosPur		○	
36	商品単価小数点桁数在庫	ItmUPDecPosIvt		○	
37	売上仕入両方区分	SalPurBotST		○	
38	消費税取引区分売上デフォルト	CTaxTrnSTSalDft		○	
39	消費税取引区分仕入デフォルト	CTaxTrnSTPurDft		○	
40	消費税外税内税区分売上	CTaxIESTSal		○	

	フィールド名	フィールド物理名	I/F 項目	商品管理区 分 M	その他
41	消費税外税内税区分仕入	CTaxIESTPur		○	
42	商品単価決定方法区分売上	ItmUPDtmMtdSTSal		○	
43	商品単価決定方法区分仕入	ItmUPDtmMtdSTPur		○	
44	商品単価決定方法区分原単価	ItmUPDtmMtdSTCos		○	
45	売上単価適用単位区分	SalUPAppUntST		○	
46	構成商品保有区分	CpnItmHIdST		○	
47	商品調達先チェック方法区分	ItmPcrChkMtdST		○	
48	商品諸口区分	ItmOthST		○	
49	ユーザ定義コード処理パターン 番号	UDefCDPrcPatNum		○	
50	部品展開階層納品	BOMLvIShp		○	
51	部品展開階層請求区分	BOMLvIBiST		○	
52	営業成績商品区分コード	SalRItmSTCD		○	
53	POS 商品管理区分コード	POSItmMgtSTCD		○	
54	POS 商品ダウンロード対象区 分	POSItmDLObjST		○	

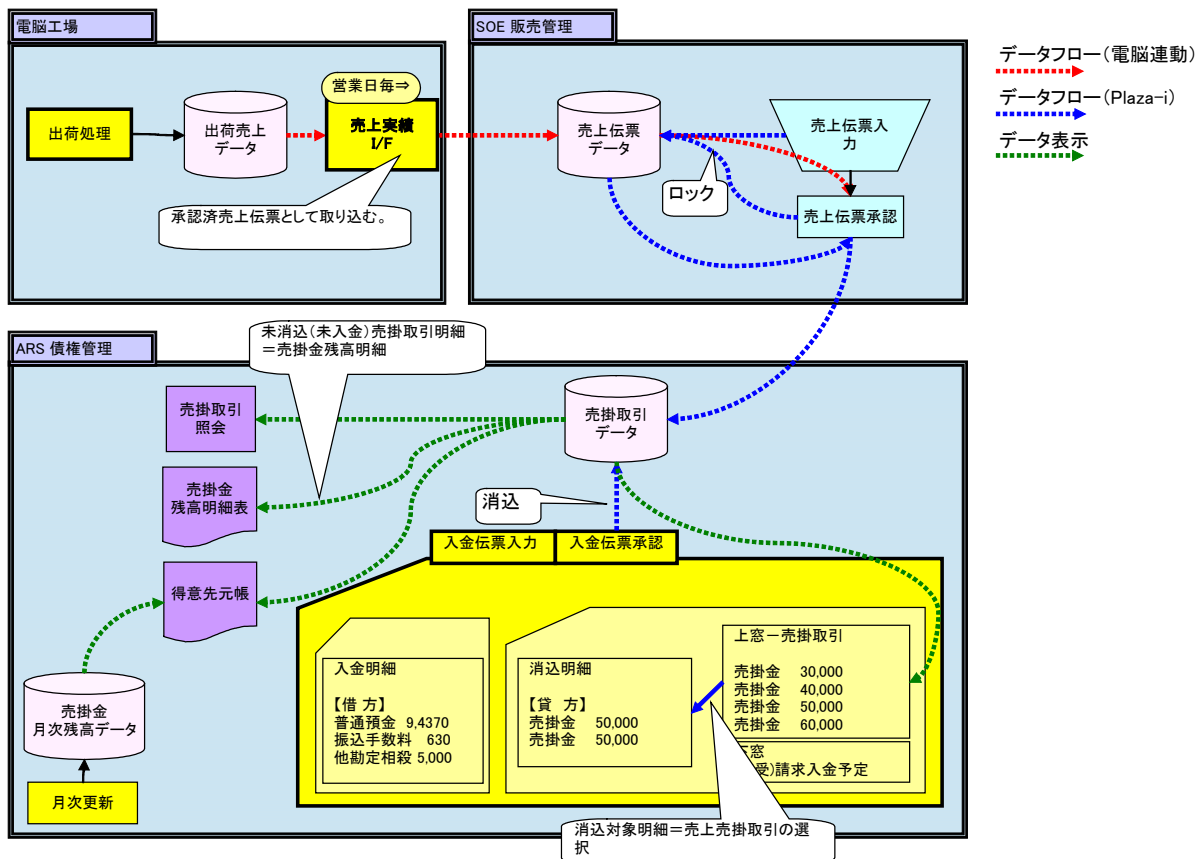
- I/F 項目が電腦工場システムから転送可能なフィールドです。  
⇒ 必須フィールドは既述の通りです。
- 商品管理区分 M コラムの○のフィールドにつき、システムは、I/F の商品管理区分コードを参照し Plaza-i の商品管理区分マスターの内容を転記します。
- 商品マスターの上記以外のフィールドについては、システムが自動的に設定（またはブランクのまま）しますので、無視して頂いて結構です。

### 3. 売上データ連動

#### 目的

- ▲ 電腦工場システム「出荷実績データ」を Plaza-i 売上傳票に取り込みます。
  - 電腦工場システムのメニューを実行することにより、電腦工場の「出荷実績データ」から Plaza-i の売上傳票を生成します。
    - ⇒ Plaza-i 売上傳票は、承認済みの状態で作成することを想定しています。これにより、Plaza-i に取り込んだ売上傳票は原則ロックされ、一切の変更、削除ができなくなります。
    - ⇒ 売上傳票が Plaza-i に生成されていますので、Plaza-i 販売管理システムの販売報告等、各種帳票・照会メニュー等を利用することができます。
    - ⇒ 売掛金取引が生成されますので、Plaza-i 債権管理システムとも連動します。
    - ⇒ さらに Plaza-i 自動仕訳システムを介し、売上計上自動仕訳を生成することにより、Plaza-i 一般会計へ連動します。

#### データフロー（イメージ図）



#### セットアップ

- ▲ 共通セットアップ
  - 本章、概要（節）で説明した「電腦工場システム構成管理マスター」と「データベースリンク」を設定します。
- ▲ 自動仕訳マスター「981：電腦工場 出荷売上データ連動」を登録します。
  - 売上傳票をどのように生成するかを定義するのに本自動仕訳マスターを利用しています。

- ⇒ 売上計上自動仕訳のための定義ではありません。
- 自動仕訳番号
  - ⇒ 「981：電腦工場 出荷売上データ連動」
- 「転送後仕訳承認済み区分」
  - ⇒ 売上傳票作成時に売上傳票承認まで実行する場合「オン（T）」
  - ⇒ オンの場合、通常の売上傳票承認プログラムが実行されます。オンに設定することを想定しています。
- 自動仕訳採番単位コード
  - ⇒ 「DEF：計上日・得意先」
    - \* 計上日と得意先が同じレコードが一つの売上傳票に集計されます。
  - ⇒ 「999：集計しない」
    - \* 明細行1行が1売上傳票として生成されます。
- 自動仕訳マスターの明細は使用しませんので、登録する必要はありません。
- ▲ 在庫取引を生成しない設定をします。
  - 以下のいずれかの設定をしてください。
    - ⇒ 全ての商品マスターの「在庫管理対象外区分」をオン（T）とする。
    - ⇒ 全ての商品取引区分マスターの「在庫転送区分」をオフ（F）とする。
- ▲ 下記のマスターはインターフェース項目が参照しているので、常に電腦工場システム側と同期を取っておく必要があります。
  - 得意先マスター
  - 組織マスター
  - 単位マスター
  - 商品マスター（既述の商品マスター連動メニューを利用して適時に同期させます）

## 留意事項

- ▲ 在庫管理は電腦工場システムで行うことを前提としています。
  - 在庫管理は、生産管理システムである電腦工場システムで行うことを想定しています。
    - ⇒ 従って仕入データは債務管理システムへ転送され、仕入伝票や在庫取引は生成されません。
    - ⇒ 在庫移動取引などもインターフェースされません。
  - 従って、セットアップで記述したとおり、在庫取引を生成しない設定をしているわけです。
    - ⇒ 売上傳票取込時に在庫取引を生成してしまうと、入庫取引が取り込まれていないのに出庫取引だけを生成しても意味がないだけでなく、取込実行時には通常の売上傳票承認プログラムが起動しますので、在庫マイナスチェックなどが実施され各種のエラーが発生する可能性があります。

## 運用上の注意点

- ▲ 処理実行タイミング
  - 転送処理は、原則として、電腦工場システムのメニューから日次で実行してください。
  - データ転送後、電腦工場システム、Plaza-i システムともに、データの変更・削除はできません。
    - ⇒ 赤黒処理により、対応してください。
- ▲ 以下の項目は、必須項目となります。
  - 売上計上日
  - 得意先コード
  - 組織コード
  - 商品コード



## ▲ 伝票作成単位とデータの適用

- 伝票作成単位が「計上日・得意先」場合、伝票作成単位で適用 (Commit) または取り消し (RollBack) されます。

## ▲ エラー原因

- 必須項目がブランクの場合、エラーとなります。
- インターフェース項目が参照しているマスターに未登録または非使用となっている場合、エラーとなります。

## ▲ 売上傳票承認中のエラー

- 売上傳票承認実行中にエラーが発生した場合、その伝票作成単位に含まれる処理対象データは、すべて処理未成功となります。

## インターフェース項目

	フィールド名	フィールド物理名	I/F 項目	その他
1	企業コード	EntCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
2	会社コード	CoCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
3	本支店コード	BrCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
4	売上年月日	SalDT	○	
5	売上タイプコード	SalTypCD	△	I/F 項目は非使用。 電腦工場システム構成管理マスターから決定。
6	得意先コード	CstCD	○	
7	売上摘要	SalDsr	○	
8	売上摘要 1	SalDsr1	○	
9	売上摘要 2	SalDsr2	○	
10	組織コード	OrgCD	○	
11	得意先伝票番号	CstVchNum	○	
	以下、売上傳票明細に取り込まれる項目			
12	商品コード	ItmCD	○	
13	商品名正式	ItmNM	○	
14	売上摘要明細	SalDsrDet	○	
15	仕様説明	SpcEpl	○	
16	売上数量	SalQty	○	
17	単位コード	UntCD	○	
18	実際販売単価	AtlSalUP	○	
19	販売取引金額	SoeTrnAmt	○	
20	売上原価本体	COSBdy	○	
21	売上明細備考	SalDetRmk	○	

## ▲ ヘッダと明細が 1 レコードに格納されています。

- 電腦工場の出荷実績データは、ヘッダ明細型ではなく、いわゆる一品一葉形式のレコードとなっています。
- 従って、既述の自動仕訳採番単位コードを「集計しない」とした場合には、ヘッダ 1 レコードに対し明細 1 レコードの売上傳票が生成されます。

## ▲ インターフェース項目以外の項目の規定値セット

- 「売上タイプコード」は、電腦工場システム構成管理マスターに規定値を登録することができます。

- それ以外の項目は、SOE 売上メニューの「売上傳票外部データ取込」の「売上傳票作成処理時の規定値セット」で説明する方法により設定可能です。
- また USR ユーティリティメニューの「ユーザデータ交換処理マスター」の「オプション設定」を行うことで、伝票作成時の各種オプションを利用することができます。

## 4. 仕入データ連動

### 目的

- ▲ 電腦工場システム「受入実績データ」を Plaza-i 債務計上傳票に取り込みます。
  - 電腦工場システムのメニューを実行することにより、電腦工場の「受入実績データ」から Plaza-i の債務計上傳票を生成します。
    - ⇒ その後は Plaza-i 債務管理の通常の運用通り、債務計上、承認、支払準備、支払承認処理を行います。
  - 通常、電腦工場システムの「受入実績データ」には、材料仕入取引と、加工品受入（有償支給、無償支給とも）取引（加工賃の計上）が含まれます。

### セットアップ

- ▲ 共通セットアップ
  - 本章、概要（節）で説明した「電腦工場システム構成管理マスター」と「データベースリンク」を設定します。
- ▲ 自動仕訳マスター「982：電腦工場 仕入債務データ連動」を登録します。
  - 債務計上傳票をどのように生成するかを定義しています。
  - 自動仕訳番号
    - ⇒ 「982：電腦工場 仕入債務データ連動」
  - 「転送後仕訳承認済み区分」
    - ⇒ 債務計上傳票作成時に債務計上承認まで実行する場合「オン（T）」
  - 自動仕訳採番単位コード
    - ⇒ 「DEF：計上日・支払先・支払先伝票番号」
    - ⇒ 「999：集計しない」
- ▲ 同上、自動仕訳マスター明細の設定方法
  - 以下で設定した項目が取り込まれるよう、自動仕訳システムの自動仕訳明細行属性決定方法マスターで各行の決定方法区分に対しレコードソースでなく「マスター」を設定してください。
  - 「11：仕入計上仕訳行（借）」
    - ⇒ インターフェース項目「仕訳金額1」の金額に対する設定となります。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税仕入」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「外税」または「内税」。
  - 「12：仕入計上仕訳行（貸）」
    - ⇒ マイナスの金額が転送されてきた場合に利用します。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税仕入」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「外税」または「内税」。
  - 「31：加工賃計上仕訳行（借）」
    - ⇒ インターフェース項目「仕訳金額2」の金額に対する設定となります。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税仕入」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「外税」または「内税」。
  - 「32：加工賃計上仕訳行（貸）」
    - ⇒ マイナスの金額が転送されてきた場合に利用します。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税仕入」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「外税」または「内税」。
  - 「81：仮払消費税仕訳行」
    - ⇒ 勘定科目コード：「仮払消費税」

- ⇒ 消費税取引区分：「課税対象外」
- ⇒ 消費税外税内税区分：「全額」
- 「82：仮受消費税仕訳行」
  - ⇒ 勘定科目コード：「仮受消費税」
  - ⇒ 消費税取引区分：「課税対象外」
  - ⇒ 消費税外税内税区分：「全額」
- 「91：債務仕訳行」
  - ⇒ 現状、利用していません。
- ▲ 自動採番グループ対応マスター
  - システムファンクション「連携他社システムー電腦工場仕入債務データ連動」に対応する自動採番グループを登録します。
  - あらかじめ、自動採番グループマスターで、「電腦工場仕入債務データ連動」用の自動採番グループ（例えば、「DFP」など）を作成しておくといよいです。
- ▲ 下記のマスターはインターフェース項目が参照しているので、常に電腦工場システム側と同期を取っておく必要があります。
  - 支払先マスター
  - 勘定科目マスター
  - 組織マスター

## 運用上の注意点

- ▲ 処理実行タイミング
  - 転送処理は、原則として、電腦工場システムのメニューから日次で実行してください。
  - データ転送後、電腦工場システム、Plaza-i システムともに、データの変更・削除はできません。
    - ⇒ 赤黒処理により、対応してください。
- ▲ 以下の項目は、必須項目となります。
  - 債務取引年月日
  - 支払先コード
  - 組織コード
  - 勘定科目コード
    - ⇒ 材料仕入勘定科目、加工賃の金額がゼロでない場合は、加工賃勘定科目。
- ▲ 支払予定データ
  - 債務計上傳票の支払予定タブに表示される支払予定データは、Plaza-i が自動作成します。
  - 但し、支払予定日がインターフェース項目「支払予定日」に定義されている場合は、その支払予定日を利用して自動作成します。
- ▲ 伝票作成単位とデータの適用
  - 伝票作成単位が「計上日・支払先・支払先伝票番号」場合、伝票作成単位で適用（Commit）または取り消し（RollBack）されます。
- ▲ エラー原因
  - 必須項目がブランクの場合、エラーとなります。
  - インターフェース項目が参照しているマスターが未登録または非使用となっている場合、エラーとなります。
- ▲ 仕訳金額がゼロの場合
  - 仕訳金額がゼロの場合、その行については、債務仕訳明細は作成されず、「取込済み」となります。
- ▲ 債務計上承認中のエラー

- 債務計上承認実行中にエラーが発生した場合、その伝票作成単位に含まれる処理対象データは、すべて処理未成功となります。

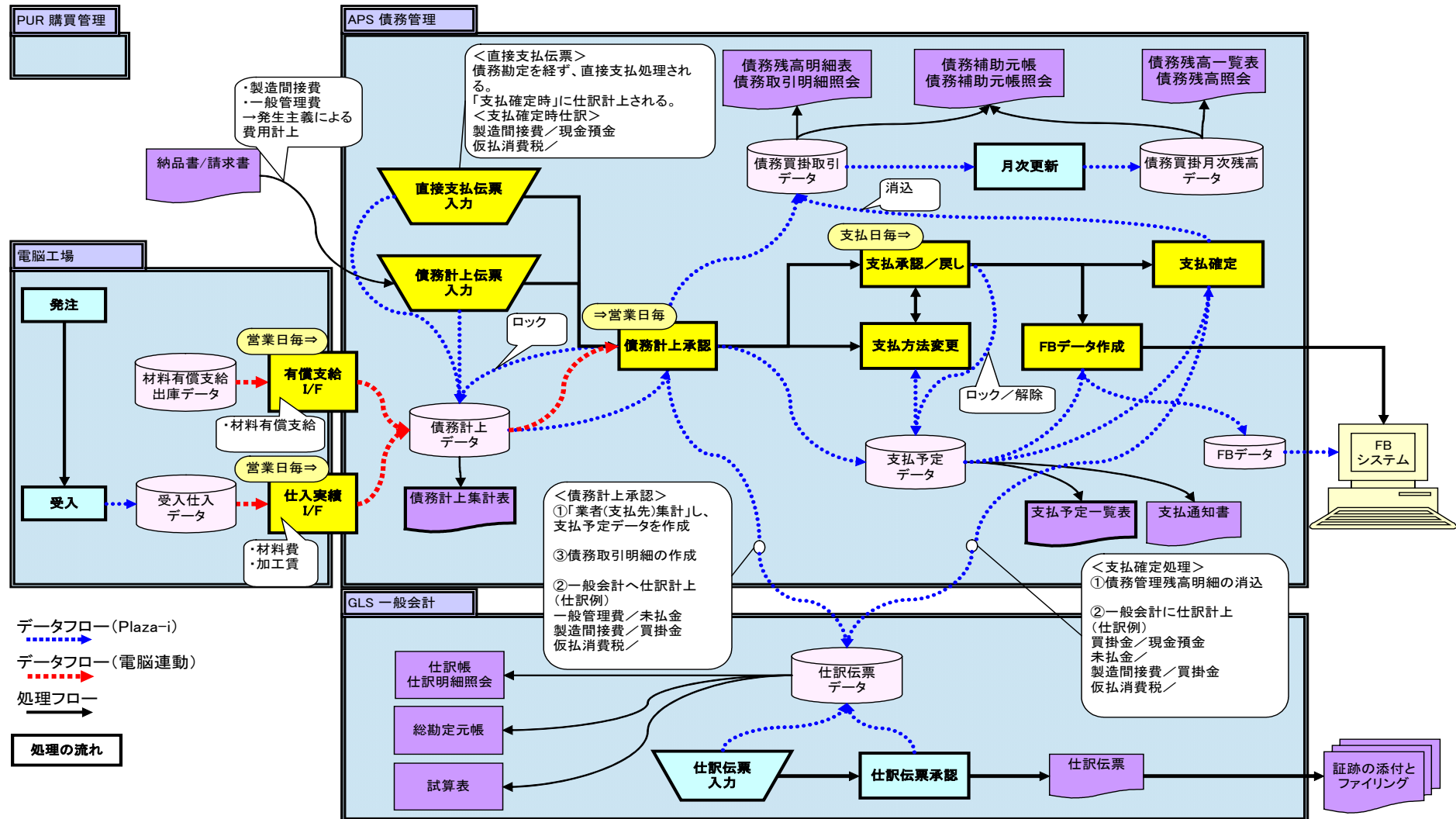
## インターフェース項目

	フィールド名	フィールド物理名	I/F 項目	その他
1	企業コード	EntCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
2	会社コード	CoCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
3	本支店コード	BrCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
4	債務取引年月日	AcrTrnDT	○	
5	支払先コード	PayTOCD	○	
6	支払予定日	DueDT	○	ブランクの場合、Plaza-i が自動計算
7	支払先伝票番号	PayTOVchNum	○	
8	債務取引摘要	AcrTrnDsr	○	
	以下、明細項目			
9	勘定科目コード	ActCD	○	加工賃の勘定科目、仕訳金額は、電腦工場側中間テーブルでは、「勘定科目 2」「仕訳金額 2」となります。
10	組織コード	OrgCD	○	
11	債務仕訳金額	AcrJnlAmt	○	加工賃の勘定科目、仕訳金額は、電腦工場側中間テーブルでは、「勘定科目 2」「仕訳金額 2」となります。
12	仕訳摘要名正式	JnlDsrNM	○	

▲ ヘッダと明細が 1 レコードに格納されています。

- 電腦工場の受入実績データは、ヘッダ明細型ではなく、いわゆる一品一葉形式のレコードとなっています。
- 従って、既述の自動仕訳採番単位コードを「集計しない」とした場合には、ヘッダ 1 レコードに対し明細 1 レコードの債務計上取引が生成されます。

## 電腦工場連動債務計上支払プロセスの自動化：イメージ図



## 5. 有償支給データ連動

### 目的

- ▲ 電腦工場システム「支給実績データ」を Plaza-i 債務計上傳票に取り込みます。
  - 電腦工場システムのメニューを実行することにより、電腦工場の「支給実績データ」から材料有償支給取引に対応した Plaza-i 債務計上傳票を生成します。
    - ⇒ その後は Plaza-i 債務管理の通常の運用通り、債務計上、承認、支払準備、支払承認処理を行います。
  - 材料有償支給取引に対応した債務計上傳票の作成方法は、APS 債務計上（章）、債務計上傳票入力（節）、材料有償支給取引と支払相殺処理（項）の処理方法例を参照してください。

### セットアップ

- ▲ 共通セットアップ
  - 本章、概要（節）で説明した「電腦工場システム構成管理マスター」と「データベースリンク」を設定します。
- ▲ 自動仕訳マスター「983：電腦工場 有償支給データ連動」を登録します。
  - 債務計上傳票をどのように生成するかを定義しています。
  - 自動仕訳番号
    - ⇒ 「983：電腦工場 有償支給データ連動」
  - 「転送後仕訳承認済み区分」
    - ⇒ 債務計上傳票作成時に債務計上承認まで実行する場合「オン（T）」
  - 自動仕訳採番単位コード
    - ⇒ 「DEF：計上日・支払先・支払先伝票番号」
    - ⇒ 「999：集計しない」
- ▲ 同上、自動仕訳マスター明細の設定
  - 以下で設定した項目が取り込まれるよう、自動仕訳システムの自動仕訳明細行属性決定方法マスターで各行の決定方法区分に対しレコードソースでなく「マスター」を設定してください。
  - 「11：材料振替元仕訳行（貸）」
    - ⇒ 勘定科目コード
      - \* 払い出す原材料の「棚卸勘定科目」を指定します。
      - \* ただし、原材料によって棚卸勘定科目が異なる場合には、インターフェース項目「勘定科目 2」に適切な勘定科目をきちんとセットし、自動仕訳明細行属性決定方法マスターで「レコードソース」を指定することにより、インターフェース項目を参照させて下さい。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税対象外」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「他」
  - 「12：材料振替先仕訳行（借）」
    - ⇒ 勘定科目コード
      - \* 明細行 11 の相手勘定科目、つまり有償支給材料の払出原価に相当する勘定科目を指定します。
      - \* 通常は、「P/L 材料有償支給高」となります。
      - \* ただし、インターフェース項目「勘定科目 2」に含まれますので、取引毎に異なる場合には明細行 11 と同じ設定をしてください。
    - ⇒ 消費税取引区分：「課税対象外」
    - ⇒ 消費税外税内税区分：「他」
  - 「21：有償支給高仕訳行（貸）」
    - ⇒ 勘定科目コード：「材料有償支給高」。ただし、インターフェース項目に含まれます。（「勘定科目 2」）

- ⇒ 消費税取引区分：通常「課税売上」となります。
- ⇒ 消費税外税内税区分：「外税」または「内税」。インターフェース項目「仕訳金額 2」の金額に合わせて設定します。
- 「22：有償支給消費税仕訳行（貸）」
  - ⇒ 勘定科目コード：「仮受消費税」
  - ⇒ 消費税取引区分：「課税対象外」
  - ⇒ 消費税外税内税区分：「全額」
  - ⇒ 組織コード：「共通組織」
- 「31：有償支給未収入金仕訳行（借）」
  - ⇒ 利用していません。
- ▲ 自動採番グループ対応マスター
  - システムファンクション「連携他社システムー電腦工場有償支給データ連動」に対応する自動採番グループを登録します。
  - あらかじめ、自動採番グループマスターで、「電腦工場有償支給データ連動」用の自動採番グループ（例えば、「DFE」など）を作成しておくといよいです。
- ▲ 下記のマスターはインターフェース項目が参照しているので、常に電腦工場システム側と同期を取っておく必要があります。
  - 支払先マスター
  - 勘定科目マスター
  - 組織マスター

## 運用上の注意点

- ▲ 処理実行タイミング
  - 転送処理は、電腦工場システムのメニューから、月次、または日次で行ってください。
  - データ転送後、電腦工場システム、Plaza-i システムともに、データの変更・削除はできません。
    - ⇒ 赤黒処理により、対応してください。
- ▲ 以下の項目は、必須項目となります。
  - 債務取引年月日
  - 支払先コード
  - 組織コード
  - 勘定科目コード
    - ⇒ 現状は、自動仕訳マスターの自動仕訳明細行属性決定方法区分をマスターに設定した場合でも、無条件に、材料振替元（B/S 原材料）勘定科目と有償支給高勘定科目のブランクチェックを行っています。
- ▲ 支払予定データ
  - 債務計上傳票の支払予定タブに表示される支払予定データは、Plaza-i が自動作成します。
  - 但し、支払予定日がインターフェース項目「支払予定日」に定義されている場合は、その支払予定日を利用して自動作成します。
- ▲ 伝票作成単位とデータの適用
  - 伝票作成単位が「計上日・支払先・支払先伝票番号」場合、伝票作成単位で適用（Commit）または取り消し（RollBack）されます。
- ▲ エラー原因
  - 必須項目がブランクの場合、エラーとなります。
  - インターフェース項目が参照しているマスターが未登録または非使用となっている場合、エラーとなります。



## ▲ 仕訳金額がゼロの場合

- 仕訳金額がゼロの場合、その行は、債務仕訳明細は作成されず、「取込済み」となります。

## ▲ 債務計上承認中のエラー

- 債務計上承認実行中にエラーが発生した場合、その伝票作成単位に含まれる処理対象データは、すべて処理未成功となります。

## インターフェース項目

	フィールド名	フィールド物理名	I/F 項目	その他
1	企業コード	EntCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
2	会社コード	CoCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
3	本支店コード	BrCD		電腦工場システム構成管理マスターから決定。
4	債務取引年月日	AcrTrnDT	○	
5	支払先コード	PayTOCD	○	
6	支払予定日	DueDT	○	ブランクの場合、Plaza-iが自動計算
7	支払先伝票番号	PayTOVchNum	○	
8	債務取引摘要	AcrTrnDsr	○	
9	勘定科目コード	ActCD	○	電腦工場側中間テーブルでは、「勘定科目 C1」が「B/S 原材料」、「勘定科目 C2」が「有償支給高」の勘定科目となります。
10	組織コード	OrgCD	○	
11	債務仕訳金額	AcrJnlAmt	○	電腦工場側中間テーブルでは、「仕訳金額1」が「原材料の払出金額」、「仕訳金額2」が「支給金額」となります。
12	仕訳摘要名正式	JnlDsrNM	○	

## 第3章 Super StreamCORE システム仕訳転送

第3章 SUPER STREAMCORE システム仕訳転送.....	3-1
1. 概要 .....	3-2
2. 仕訳転送 .....	3-4

---

# 1. 概要

---

## 目的

- ▲ SuperStreamCORE (SSCore) システムへ仕訳を転送します。

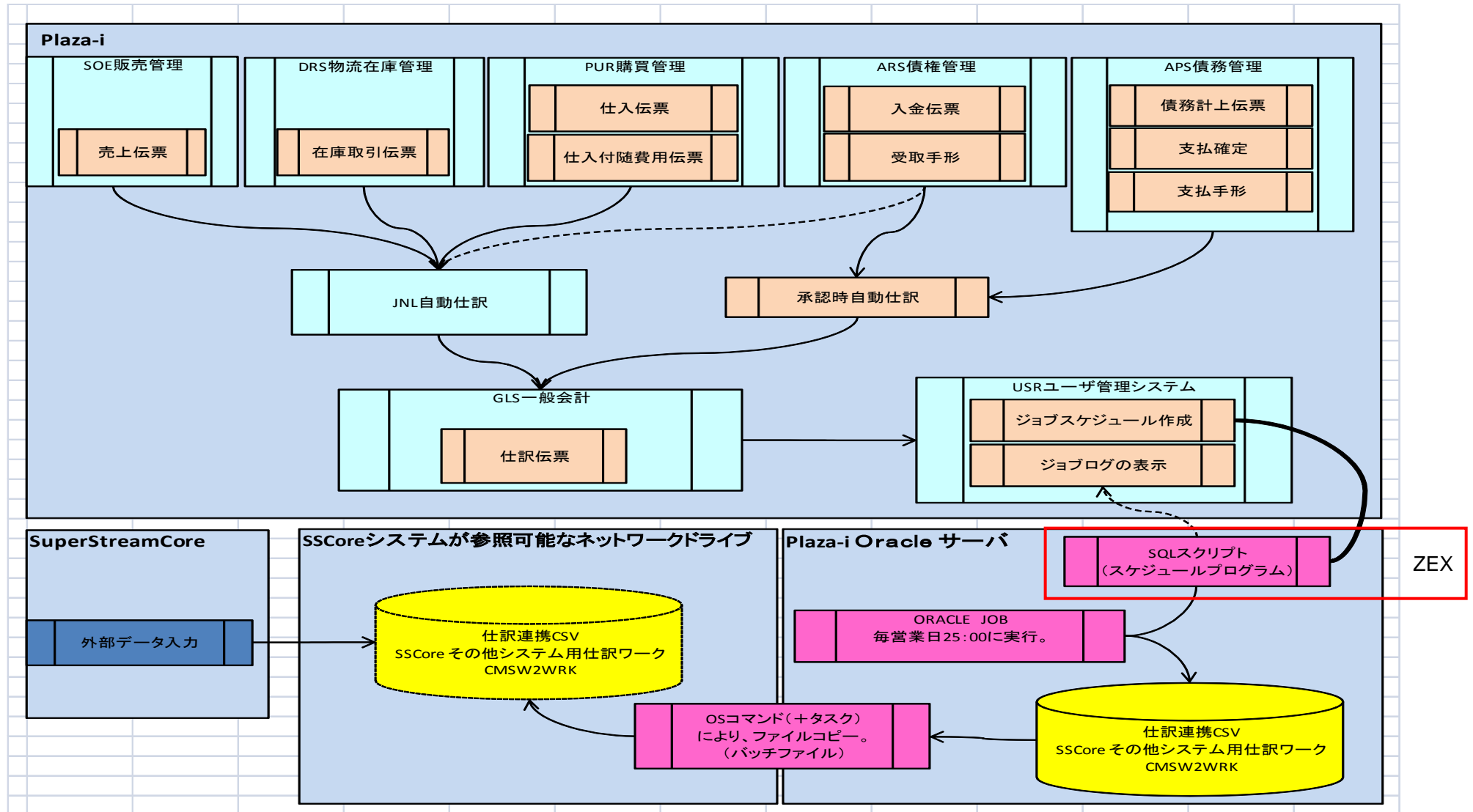
## プロセス

- ▲ Plaza-iGLS 一般会計システムの仕訳データを変換して、CSV データを作成します。
  - 仕訳データを変換しますので、自動仕訳等は実行済であることが前提としています。
  - ユーザデータ交換処理マスター等は使用していません。
  - SSScore が想定する CSV ファイルをダイレクトに作成します。
- ▲ USR ジョブスケジュールとオラクルスケジューリング機能により、日次で、自動作成します。
  - オラクルのディレクトリオブジェクトで指定したフォルダに CSV ファイルを書き込みます。
- ▲ SSScore が参照可能なフォルダに転送します。
  - オラクルから参照可能なフォルダを SSScore が参照できない場合は、Windows のタスクスケジューラ等により、SSScore が参照可能なフォルダに CSV ファイルをファイルコピーします。

## 留意事項

- ▲ 汎用的なスクリプトは用意していません。
  - 現状、ユーザデータ交換処理マスターを使用してユーザ側でマッピングを定義できるようなスクリプトは用意していません。

### SSCore 仕訳 CSV 転送イメージ図



## 2. 仕訳転送

### セットアップ

#### ▲ 自動仕訳マスターの設定

- 日次で仕訳転送を実行する場合、以下の自動仕訳は、転送後仕訳承認済み区分をオンにした方がよいでしょう。
  - ⇒ ARS 入金伝票、
  - ⇒ ARS 受取手形一括決済処理
  - ⇒ APS 支払確定
  - ⇒ APS 支払手形決済処理
- 上記のセットアップにより、基本的に、現預金に関わる自動仕訳は日次で生成することが可能となります。

#### ▲ ディレクトリオブジェクトの作成

- **USR** ユーティリティメニューの「ディレクトリオブジェクトの作成」で、オラクルのディレクトリオブジェクトを作成します。
  - ⇒ SQL スクリプトファイルの保存場所
  - ⇒ CSV ファイルの作成先
    - \* SQL スクリプトファイルから参照します。

#### ▲ ジョブスケジュールの作成

- **USR** 縮め処理メニューの「ジョブスケジュール作成」で、**SSCore** 仕訳連携のジョブコントロールを設定します。

ジョブスケジュール番号	100	スケジュールプログラム名	FUSRJOBCTL00100	状態	
スケジュール名正式	仕訳連携(日次&月次)				
スケジュール名略式					
サイクル単位	カレンダー	サイクル間隔		サイクル時間	
ジョブスケジュール					
並び	ジョブコントロール	ディレクトリオブジェクト	ファイル名		
▶ 10	SuperStreamCORE...	PI2SS	PITOSSCRTJNL.sql		
ジョブコントロール	SuperStreamCORE仕訳連携(SQL)				
ディレクトリオブジェクト	PI2SS				
ファイル名	PITOSSCRTJNL.sql				

⇒ サイクル単位は、「カレンダー」を選択します。


⇒ ジョブコントロールは、「SuperStreamCORE 仕訳連携 (SQL)」を選択します。

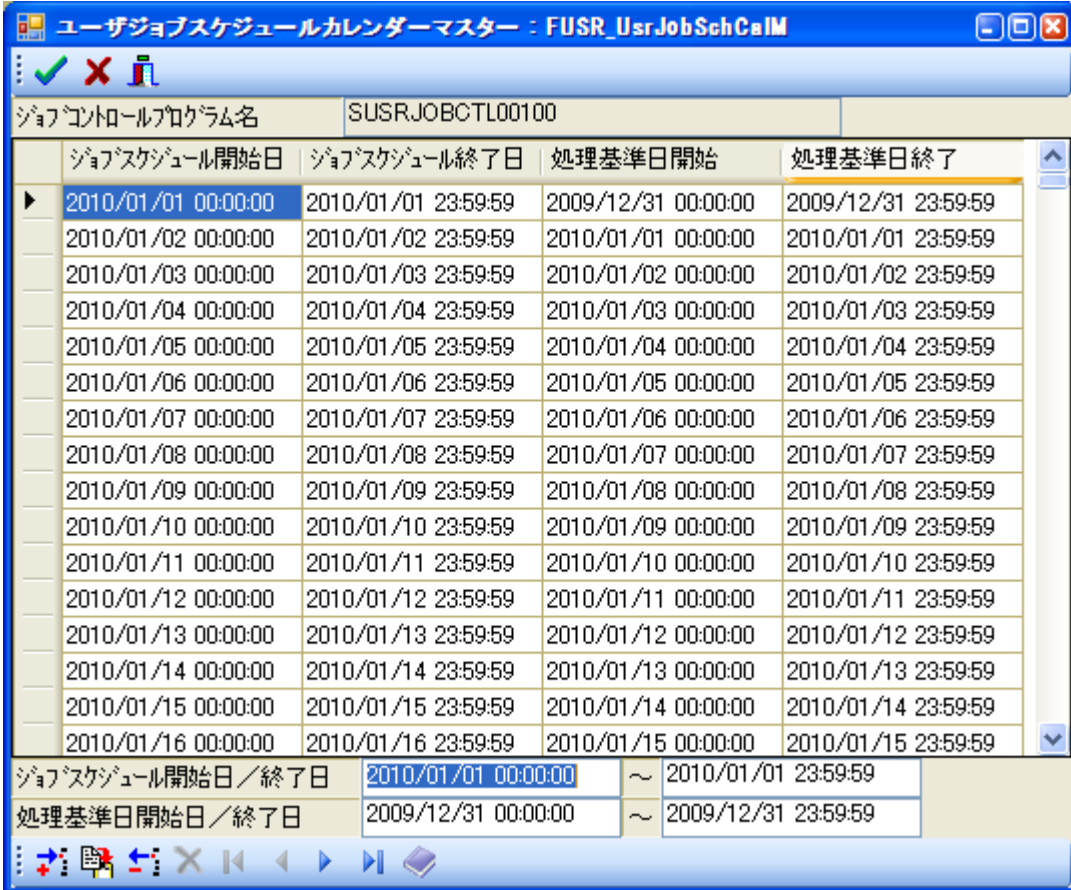
⇒ ディレクトリオブジェクトに、前述の、SQL スクリプトファイルの保存場所のオラクルディレ

クトリオブジェクト名を登録します。

⇒ ファイル名に、SQL スクリプトファイルのファイル名を登録します。

#### ▲ ジョブスケジュールカレンダーマスター

- ジョブスケジュール作成画面の、カレンダー登録ボタン (  ) から、ジョブスケジュールカレンダーマスターを登録します。



ユーザジョブスケジュールカレンダーマスター : FUSR\_UsrJobSchCaIM

ジョブコントロールプログラム名: SUSRJOBCTL00100

ジョブスケジュール開始日	ジョブスケジュール終了日	処理基準日開始	処理基準日終了
2010/01/01 00:00:00	2010/01/01 23:59:59	2009/12/31 00:00:00	2009/12/31 23:59:59
2010/01/02 00:00:00	2010/01/02 23:59:59	2010/01/01 00:00:00	2010/01/01 23:59:59
2010/01/03 00:00:00	2010/01/03 23:59:59	2010/01/02 00:00:00	2010/01/02 23:59:59
2010/01/04 00:00:00	2010/01/04 23:59:59	2010/01/03 00:00:00	2010/01/03 23:59:59
2010/01/05 00:00:00	2010/01/05 23:59:59	2010/01/04 00:00:00	2010/01/04 23:59:59
2010/01/06 00:00:00	2010/01/06 23:59:59	2010/01/05 00:00:00	2010/01/05 23:59:59
2010/01/07 00:00:00	2010/01/07 23:59:59	2010/01/06 00:00:00	2010/01/06 23:59:59
2010/01/08 00:00:00	2010/01/08 23:59:59	2010/01/07 00:00:00	2010/01/07 23:59:59
2010/01/09 00:00:00	2010/01/09 23:59:59	2010/01/08 00:00:00	2010/01/08 23:59:59
2010/01/10 00:00:00	2010/01/10 23:59:59	2010/01/09 00:00:00	2010/01/09 23:59:59
2010/01/11 00:00:00	2010/01/11 23:59:59	2010/01/10 00:00:00	2010/01/10 23:59:59
2010/01/12 00:00:00	2010/01/12 23:59:59	2010/01/11 00:00:00	2010/01/11 23:59:59
2010/01/13 00:00:00	2010/01/13 23:59:59	2010/01/12 00:00:00	2010/01/12 23:59:59
2010/01/14 00:00:00	2010/01/14 23:59:59	2010/01/13 00:00:00	2010/01/13 23:59:59
2010/01/15 00:00:00	2010/01/15 23:59:59	2010/01/14 00:00:00	2010/01/14 23:59:59
2010/01/16 00:00:00	2010/01/16 23:59:59	2010/01/15 00:00:00	2010/01/15 23:59:59

ジョブスケジュール開始日/終了日: 2010/01/01 00:00:00 ~ 2010/01/01 23:59:59

処理基準日開始日/終了日: 2009/12/31 00:00:00 ~ 2009/12/31 23:59:59

#### ▲ オラクルスケジューリングの設定

- オラクルのスケジューラを登録します。
  - ⇒ 毎日、定時に実行するジョブを登録します。
  - ⇒ 登録方法は、オラクルエンタープライズマネージャの操作となりますので、弊社技術サポート部門もしくは Plaza-i コンサルタントに別途ご相談ください。

#### ▲ SQL スクリプトの作成

- SQL スクリプトファイルは弊社が有償で作成致します。

## 運用例

#### ▲ 自動実行

- 上記セットアップにより、仕訳を自動転送することができます。

#### ▲ 手動実行


- ジョブスケジュール作成の基本機能ですが、エラー発生時の緊急対応、個別対応等が必要な場合、手動実行することもできます。
- ジョブスケジュール作成画面で、サイクル単位を「繰り返しなし」に設定します。

ジョブスケジュール番号	100	スケジュールプログラム名	SUSRJOBCTL00100	状態	正常
スケジュール名正式	仕訳連携(日次&月次)				
スケジュール名略式					
サイクル単位	繰り返しなし	サイクル間隔		サイクル時間	
ジョブスケジュール表					
並び...	ジョブコントロール	ディレクトリ/オブジェクト	ファイル名		
▶ 10	SS仕訳連携SQL (ZE...	PI2SS	仕訳連携.sql		

- カレンダーを使用しませんので、ジョブコントロール M 登録ボタンから、ユーザジョブコントロールマスターで、範囲指定を定義します。

ジョブコントロール番号	910	ジョブコントロールプログラム名	SuperStreamCORE仕訳連携(SQL)
パラメータ名	パラメータ値		
▶ 処理基準日開始	2010/06/20		
処理基準日終了	2010/07/31		
ファイル作成モード	r		

⇒ 範囲指定は、SQL スクリプトで個別に実装する必要があります。

- スケジュールプログラムの実行ボタン (  ) から、スケジュールプログラムを即時実行します。

#### ▲ ジョブログの表示

- SQL スクリプトの実行結果を、USR 締め処理メニューの「ジョブログの表示」画面に表示することができます。

⇒ ジョブコードは、下記の通りです。

- \* システム = 「ZEX : 連携他社システム」
- \* ジョブコード「PI2SSCJNL : SuperStreamCORE 仕訳連携(SQL)」

- 成功例

ジョブログの表示 : FGLS\_DspJobLogD

範囲指定 照会

システム	ジョブコード	ジョブ名	開始日時	終了日時	実行時間	状態	終了コード	実行ユー...	接続DB
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/14 18:28:12	2010/07/14 18:28:12	00:00:00	S	-20000	JOBCTL	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/14 18:13:50	2010/07/14 18:13:50	00:00:00	S	-20000	JOBCTL	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/14 18:11:03	2010/07/14 18:11:03	00:00:00	S	-20000	JOBCTL	SELF

システム ZEX ジョブコード PI2SSCJNL SuperStreamCORE仕 連携(SQL)

ジョブ日時/実行時間 2010/07/14 18:28:12 2010/07/14 18:28:12 00:00:00 状態 S 終了コード -20000

接続DB SELF 実行ユーザID JOBCTL 接続ユーザID TRAINING200 接続端末 OPTI\_GX620\_A064

企業 10 会社 1 本店 1 会計期間 承認番号 25939

ジョブ開始メッセージ1 SZEXPI2SSCRTWK(100-1) ジョブ開始メッセージ2 100,2010/06/20 00:00:00,2010/07/31 23:59:59,JOBCTL,73912,SS ジョブ開始メッセージ3

ジョブ終了メッセージ1 ORA-0000: normal, successful completion ジョブ終了メッセージ2 SZEXSUNJP2SSCJNL ジョブ終了メッセージ3 [レコード件数]=86, [伝票番号]=00000001-00000020, [借方金額合計]=201481826, [貸方金額合計]=201481826

- 失敗例

ジョブログの表示 : FGLS\_DspJobLogD

範囲指定 照会

システム	ジョブコード	ジョブ名	開始日時	終了日時	実行時間	状態	終了コード	実行ユー...	接続DB
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 17:03:44	2010/07/07 17:03:44	00:00:00	E	-4031	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 16:18:04	2010/07/07 16:18:04	00:00:00	E	-20202	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 16:17:04	2010/07/07 16:17:04	00:00:00	E	-20202	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 16:16:04	2010/07/07 16:16:04	00:00:00	E	-20202	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 16:15:04	2010/07/07 16:15:04	00:00:00	E	-20202	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 15:50:01	2010/07/07 15:50:01	00:00:00	E	-20202	20060810	SELF
ZEX	PI2SSCJNL	SuperStreamCORE仕	2010/07/07 15:32:26	2010/07/07 15:32:27	00:00:01	E	-20202	20060810	SELF

システム ZEX ジョブコード PI2SSCJNL SuperStreamCORE仕 連携(SQL)

ジョブ日時/実行時間 2010/07/07 16:18:04 2010/07/07 16:18:04 00:00:00 状態 E 終了コード -20202

接続DB SELF 実行ユーザID 20060810 接続ユーザID TRAINING200 接続端末 BADEV001

企業 10 会社 1 本店 1 会計期間 承認番号 25798

ジョブ開始メッセージ1 SZEXPI2SSCRTWK(100-1) ジョブ開始メッセージ2 100,2010/07/06 00:00:00,2010/07/06 23:59:59,20060810,65602,SS ジョブ開始メッセージ3

ジョブ終了メッセージ1 「PITOSSJNL.csv」ファイルが存在するため、処理を中止しました。 ジョブ終了メッセージ2 SZEXPI2SSCRTCSV->CheckFileExists ジョブ終了メッセージ3